(財)三重こどもわかもの育成財団 機関誌

～親子で話そう　今日の出来事　一日一回！～

わかもの

第113号
2005
平成17年10月発行

▲朗読劇「聞こえますか わたしたちの声」を演じた鈴鹿市の皆さん

INDEX

02 平成17年度三重県青少年育成県民交流会報告
04 第27回少年の主張三重県大会報告
05 最優秀賞「僕が崩れるその前に」
06 向き合って、話し合うっていうことで、人は育つ
08 中核的指導者養成中央研修会報告
編集後記

〈編集発行〉
(財)三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054 三重県松阪市立野町1291
中部台運動公園内
TEL：0598-22-4911
FAX：0598-23-7792
URL：http://www.mie-cc.or.jp

平成17年度 三重県青少年育成県民交流会報告

平成17年８月７日、三重県総合文化センターにおいて、「平成17年度三重県青少年育成県民交流会」が開催されました。これは県内各地域の青少年育成の取り組みを県民に広くお知らせするとともに、実践交流により青少年育成活動のさらなる活性化を目指すことを目的に、本年度より企画された新事業です。開催当日はたくさんの青少年育成関係者や一般県民の方々が参加され、大盛況となりました。

第１部　青少年育成実践発表会

●松阪市青少年育成市民会議嬉野支部
青少年育成活動事例報告

当会議の特徴は、一戸あたり300円の会費制を導入していることです。これは地域の育成活動を、各家庭がみんなで応援しようという趣旨で始まりました。

地域や学校、行政と連携を取りながら、子ども・大人を含めた育成活動を積極的に行っています。

●鵜殿村青少年健全育成村民会議
青少年育成活動事例報告

村民会議では各種イベントを通じて、親や地域の人たちが青少年と触れ合う機会づくりを行っています。

また生涯学習センター「まなびの郷」では高校生が企画運営の中心となって、居場所づくり活動をしています。大人がフォロー役に徹することで、子どもの自主性を生かした活動を実現しています。

●鈴鹿市青少年育成市民会議
朗読劇　「聞こえますか　わたしたちの声」

鈴鹿市内の小・中・高校生から届いた500通以上の生の声。家庭、学校、友情、恋愛、受験、クラブ活動、戦争平和など、日頃感じている何気ない心のつぶやき、熱い想いを朗読劇にして聴衆に訴えました。

現代社会に生きる子どもの心の奥に秘めた悩み、悲しみ、喜びなどを、同年代の若者が演じ、観る人の心を揺さぶりました。

劇が終わり、演じた子どもたちが整列すると、会場は割れんばかりの拍手に包まれました。

第２部　青少年育成市町村民会議連絡会

県内の青少年育成市町村民会議の方々と、旧青少年育成県民会議を引き継いだ㈶三重こどもわかもの育成財団とが一堂に会し、意見交換会が行われました。日頃から直接意見交換をする機会が少ないため企画されたもので、時間を超過して活発な意見交換が行われました。

Q. ㈳三重県青少年育成県民会議と㈶三重県児童健全育成事業団が統合し、㈶三重こどもわかもの育成財団が発足して１年以上経つが、成果と問題点は？

A. こどもの城事業の広報を県民会議の組織ルートで行うことができ、成果をあげている。また県民会議時代の出捐金については、協定どおり県民会議事業に限って使用されている。

Q. 県民会議時代のように賛助会員の復活を願いたい。

A. 協定書には賛助会員を募ることができると謳われているので、将来的には可能である。ただ現時点でまとまった財産があるのに、新たに資金を募ることは一般にも理解を得にくく、時間をかけて検討してからの方が望ましいと考える。

Q. 市町村民会議活性化事業は平成16年度・17年度のみとなっているが、延長することはできないか？

A. 各市町村民会議からの要望が多いので、平成18年度まで延長することとする。

Q. 指定管理者制度に伴うみえこどもの城の今後の管理運営について経過状況を説明してほしい。

A. 指定管理者制度は運営を入札制で行うものであり、民間に渡ってしまうと財団統合した意味がなくなってしまう。必ずや指定管理者となれるよう、十分な準備で臨んでいる。

第３部 特別講演会 義家弘介（よしいえひろゆき）さん
「ヤンキー 新たなる挑戦！」

横浜市教育委員会教育委員、義家弘介さんの講演会では、自らの教育論をもとに、熱弁がふるわれました。

まず、教師は「聞く・伝える・学ぶ」の３つの「プロ」でなければならないこと。次に優しさと甘さをすり替えた大人が、子どもたちを路頭に迷わせてしまうこと。現代社会の最大のテーマである「関係」、これにおびえることなく、お互い本気で向き合っていかなければならないことなどが、熱く語られました。

最後に紹介された、「夢は決して逃げていかない。自分が夢から逃げていくのだ。」というメッセージが観客の心に響きました。

平成17年度東海・北陸・近畿地区 青少年健全育成活性化方策研究協議会が開催されます

中学・高校生の生の意見に耳を傾けて、少しでも若者に共感し理解すること、また各地で展開されている様々な取り組み事例をもとに、参加者同士が相互に育成活動につながる話し合いをして、青少年育成運動の活性化を図る目的で実施されます。

【テ ー マ】『聞こう！知ろう！わかものの声！』～今の青少年を知り、青少年育成運動の活性化方策を考える～
【日　　程】平成17年11月26日（土）　10：00より
【会　　場】伊勢シティホテル　伊勢市吹上1−11−31　TEL 0596−28−2111
【参加対象】各府県青少年育成関係機関、市町村民会議関係者、各府県青少年育成指導者など
【主　　催〕内閣府、㈳青少年育成国民会議、三重県、㈶三重こどもわかもの育成財団

＊お問い合わせは、㈶三重こどもわかもの育成財団　青少年育成グループ（TEL 0598-22-4911）まで。

第27回少年の主張三重県大会報告

平成17年８月28日、松阪市嬉野ふるさと会館において、「第27回少年の主張三重県大会」が開催されました。本年は県内20校から2,562名の応募があり、選ばれた13名が本大会で自らの主張を発表しました。

なお本大会では、松阪市立嬉野中学校吹奏楽部員による司会進行や演奏会など、中学生の全面的な運営協力により、大会は大いに盛り上がりました。

◆ 審査結果発表 ◆

賞	中　学　校	学年	名　　前	タ　イ　ト　ル
最優秀賞	赤目中学校	１年	西﨑　和也さん	僕が崩れるその前に
優秀賞（順不同）	鈴鹿中学校	３年	山室　周子さん	伝統と男女差別
	皇學館中学校	３年	松岡　里衣奈さん	世界中の人々に幸せを広げるために
	矢渕中学校	３年	中西　鞠奈さん	修学旅行で思ったこと
	鈴鹿中学校	３年	北出　ひかりさん	私にとっての「大切なもの」
優良賞（順不同）	大宮中学校	３年	丸之内　麻莉さん	悲しみを自信と希望に
	鈴鹿中学校	３年	宮﨑　絢子さん	最近の若者について
	有馬中学校	３年	濵口　佳奈さん	私の町
	多度中学校	１年	加藤　美弥子さん	環境について
	高田中学校	１年	豊田　詠子さん	言葉の力
	嬉野中学校	３年	井波　由香さん	その人を支えるために…
	三船中学校	２年	畦地　美緒さん	水害から学んだこと、感じたこと
	紀北中学校	１年	長井　明日香さん	障害者のためにできること

●学校奨励賞（順不同）

暁中学校、鈴鹿中学校、多度中学校、高田中学校、香海中学校、大宮中学校、日生学園附属中学校、赤目中学校、赤羽中学校、三船中学校、潮南中学校、尾鷲中学校、九鬼中学校、輪内中学校、有馬中学校、木本中学校、矢渕中学校

13名の発表者の皆さん

嬉野中吹奏楽部による演奏会

最優秀賞

「僕が崩れるその前に」

名張市立赤目中学校一年　西﨑　和也さん

ある日の夕食時、僕はあのニュースを見た。十七才の少年が幼い子どもを殺そうとしたというニュースだ。最初は信じられなかった。聞いた瞬間は、とても理解できなかった。

「だれでもいいから殺したかった。」

この言葉を聞いたときは、本当に恐かった。恐怖とは別の言葉にできない恐さがあふれでた。こんな言葉を言える事が信じられなかった。しかもその言葉を言ったのが高校生だなんて、だれも想像できるわけがない。なぜ軽々と人を殺したいと言えるのか、なぜ簡単に人を殺せるのか。いくら世の中がぶっそうになったとはいえ、自分と同じ世代が人を殺している、殺そうとしていると思うと、なんだか心が重苦しかった。彼らはいったい何を考え、どう思っているのだろうか。これらの原因がマスコミでよく言う仮想現実にあるとしたら、正直言って、僕にとっては困る話だ。

ゲームやインターネット、この世界はいつも仮想現実であふれているけど、それらは本当に殺しにつながっているのだろうか。僕にはどうしてもそう思えない。なぜなら、自分も仮想現実を利用し、仮想現実を楽しんでいるからだ。勉強ばかりじゃつまらないし、ときには息ぬきだって必要なんだ。仮想現実は現実とはちがい簡単で、いくらでもやりなおせる。だから簡単に「つもり」になれる仮想現実の世界は楽しく居心地がいい。もしかすると、僕は楽をしているのかもしれない。けど、なんだかやりはじめると、とまらなくてやみつきになる。それほど人間をとりこにしてしまう仮想現実の力というのは、思ったよりも大きいのかもしれない。この力のせいで、罪を犯す彼らは、現実と仮想現実との区別がついていない、もしくはつけられないのではないのだろうか。仮想現実は、あくまで“ニセモノ”の世界。現実を無視して、そこだけの特別な世界なのに、彼らにはそれが分からない。もしかすると仮想現実が本物の現実になってしまっているのではないだろうか。

表彰される西﨑さん

それでも、みんな、いつも自分を探している。毎日、本当の自分を探しているんだ。その途中で、道に迷ったり、あきらめたりしたときの弱みに仮想現実が忍びこみ、そして彼らは、それにたよる。いつのまにか、その世界しか見えなくなり、やってはいけないことをやってしまう。でもそれは、仮想現実が悪いんじゃない。現実からにげた、その人自身が悪いんだ。仮想現実がいいのか悪いのかどうかは、その人の判断によって決まる。だから僕らはいつも正確な判断をしなくてはいけないんだ。今の僕らには、とても難しいことだ。でも、いつも学校や家族、友達という、大切な“現実”というものが、僕らが正しく生きていく手助けをしてくれている。そして、今という貴重な時をすごして、成長し、みんな本当の自分を見つけていくのではないのだろうか。だから今、僕は、現実という世界を思う存分に生きていきたい。そして、一生懸命自分探しをしていきたい。いつかきっと、本当の自分に出会い、仮想現実という「カラ」から抜け出したいと思う。現実はつらくて苦しい。でも、この世界に生きる以上、そのことはどんなに考えても、にげることはできない。自分で努力して、がんばって、そして乗りこえることが本当の自分を見つける第一歩なんだと思う。これは、この世界に生きる、僕達人間の義務なんだ。

仮想現実は、強い力で、僕らの“心”を崩そうとする。だから僕らは、その力に負けない、強い“心”を持ち、仮想現実の誘惑に打ち勝たなければいけない。それができなきゃ自分探しはできない。自分探しの、とてつもなく長い道のりの途中で、いつ仮想現実の誘惑があっても大丈夫にするために、心を強くするようどんな時も心がけよう。そして、僕が崩れるその前に、本当の自分を見つけよう。

【上島 均 審査員長講評】

（三重県教育委員会小中学校教育室長）

どの発表者もレベルが高く、甲乙付け難いものでしたが、西﨑さんの表現は、しっかりとした口調や、めりはりのある話し方、自分の心に問いかける手法など、聴衆にわかりやすく、説得力のあるもので、総合的に高く評価されました。

向き合って、話し合うっていうことで、人は育つ

上野達彦委員長

平成17年１月、『青少年を取り巻く良好な社会環境整備の推進は大人の責務』として、野呂明彦 三重県知事より三重県青少年健全育成審議会へ、今後の三重県の青少年の健全育成のあり方について意見を求められました。課題は次の３点です。

●インターネット上の有害情報への対応について
●非行等を助長する行為への対策について
●有害環境対策について

三重県青少年健全育成審議会では諮問趣旨にそって検討を進める中で、専門委員会を設けるなど精力的で緻密な話し合いが進み、10月末に答申が予定されています。審議会の上野達彦委員長から諮問を中心に、青少年の問題行動に関するお考えを伺いました。

Q 今、青少年はインターネットからの情報収集が中心ですね

上野： そうです。そして、今日的な問題はインターネットの有害情報ですね。それをどうやって青少年の目に触れさせないようにするか。現実には無理だと思うけれど、少しでも有害情報を目に触れさせる機会を少なくさせようということで、フィルターみたいなものを作って、完全じゃないですけれど、やらないよりもましだという、理論ですね。

インターネットを全てつぶしてしまえ、子供たちの目に触れさせないというのは無理ですね。その前に、日本の社会の中での倫理観が欠落し、商業主義がはびこっていることが大きな問題です。

インターネットは外国からもどんどん情報が流れてきますから、これは避けられません。本来ならばそれを修復するためには子どもたちに十分な考える力とか、教育力をつけて、そんなものが流れてきても見ないよ、ということがあればいいんですけれど、それが今極めて弱くなってきています。

15歳の子どもたちが大きな事件を起していますよね。あれなんかもインターネット情報によって刺激を受けていたと一面で言われています。大人であろうが子どもであろうがいろんなものを見せることによって商売をしようとしている人たちがいるので、やはり何らかの形で規制をしなければいけないとね。

基本的には人と人とが会って話をするということで、相手に自分の考えを伝えたり、また相手方から反応があったりしますね、それで人間っていうのは成長していくだろうと。今はインターネットとか携帯のｅメールだとかで、目と目を合わせないで自分の意思を伝達するということが増えているので、そこに本来の人間関係っていうのは育つのだろうかということです。インターネットの有害情報じゃないんですけれども、人間の言葉による伝達手段っていうものを、もう一回考え直さなきゃいけないんでしょうね。

人との出会いの場をどんどん地域の中で広げていくことが出来れば、いいでしょうけれど。

Q 「向き合って、話し合うっていうことで、人は育つ」は、非行問題にもあてはまりますね

上野： 非行等を助長する行為に対して、警察の力も必要だし、青少年育成市町村民会議、青少年育成アドバイザー、様々な子どもたちのことを考えるNPOやボランティアとかへ、全面的に協力をお願いすると言うことです。

抽象的な意味でお年寄りの方も熱心にやってくださっていると思います。だけど自分たちの経験を踏まえてご発言されるから、非常にある意味では子どもたちにとっては押し付けとか、説教

とか、そういうふうに聞こえちゃうっていう部分があります。だから、僕は青少年問題っていうのはやはり大人が子どもたちに対して話をする際に年代的バランスっていうのが大事だと思います。バランスの中に立って、決して抽象的でない具体的な事例をつかみながら、それについてどういうふうに子どもたちの将来を考えていくかっていうことでしょう。

地域を育てるとか子どもを育てるとかいろんなキーワードがありますね。学校の問題とか家庭の問題とか地域の問題とか、いろんな問題の解決には向き合う人の存在が重要ですね。

子どもたちはあるていど自立しているわけだから、その自立していることに対して、あんまり警察力とかを持って手助けする保護を全面的に押し出すことはまずいという意見が一方であります。自立に任せて家庭だとか教育だとか地域だとかっていうところに任せたほうがいい、あんまり規制するべきじゃないとね。方向性としては良いのですが、僕はそれに対して反対で、今、地域とか家庭とか学校が、すでにある意味で非常に力が弱くなってきているわけだから、子どもたちを守らなければいけないので、「青少年健全育成条例」ということになります。その目的は青少年を守ることを全面的に強調し、保護を前面に出していくというのが重要だと思っています。そういう意味ではいろんな場面をまず警察力でも何でもいい、そういう力で規制をまずやった上でそこから次に家庭をどうしようとか、地域をどうしようとか、学校をどうしようということを考えていくことだと思っています。

青少年健全育成の問題の部分と、もう一つ県で抱えている安全安心街づくり推進事業っていうのがあります。“安全安心”要するに、今いろんなところで犯罪が起こっているので、その犯罪を地域の人が地域の中で自分たちで自分たちの身を守ろうという条例ができました。結局は安全安心にしても、青少年の問題にしても、基本的に「育てる」っていうのがやっぱりテーマですね。

Q 地域にある誤った性意識を助長するような雑誌類の規制では…

上野： 誤った性意識を助長するような雑誌類の規制も、難しい課題です。性に対する関心は大人も、子どもも同じだと思います。そのなかでなぜ子どもにだけ規制するのかについて、子どもたちに分かる説明が必要だと思います。そこでは人間にとってなぜ異性が大切なのか、また異性とのつきあい方はどうあるべきかなどが大人の側から発信し、子どもたちの性に対する感性を磨いていくことが大切だと思います。このような営みのなかで、子どもたちの性に対する関心を育てることが必要です。この意味でこれを阻害する無責任に誤った性意識を助長するような有害情報の規制はあって当たり前と思います。

（文責：中西智子）

全日本青少年育成アドバイザー連合会全国大会が終了

6月18日～19日に茨城県大洗パークホテルで開催された全国大会に、三重県から5人が参加し、青少年問題に取り組むアドバイザー連合会の理念や活動の現状・将来の方向性等について討議しました。

聖徳大学 福留 強 教授による特別講演『子どもが主役のまちづくり』では、全国各地で行われる「平成子どもふるさと検地」の紹介や、「子どもたちをまちづくりに参画させる研究・推進」の事例報告を通して、子どもの個性を伸ばすことの重要性や「子どもは自分を認めてくれた人やふるさとが好きになる」といったことなどが語られました。

分散会の様子

次回は名古屋で全国大会が開催されます。三重県内で活動しているアドバイザーの方々は是非参加して、地域の活性化と活動の充実が図れるような機会にしていきたいものです。

（報告：三重県青少年育成アドバイザー研究会 辻村 知身）

平成17年度「青少年育成運動展開のための指導者養成事業」

中核的指導者養成中央研修会報告

～いま、なぜ、育成活動の活性化か～

内閣府・㈳青少年育成国民会議主催の中核的指導者養成中央研修会が、去る平成17年９月13日から15日にかけて、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。全国43府県から180名以上の青少年育成関係者が参加しました。グループ討議・ワークショップの結果、各府県とも以下のような同様の悩みを抱えていることが改めて浮き彫りになりました。

１つ目はまず、**青少年育成市町村民会議の組織の見直しが重要である**ということです。**あて職による役員ばかりではなく、地域の民間育成団体・NPOや青少年育成アドバイザーなど、第一線で活動されている方や、様々な立場の方を組織内に配置することにより、組織全体の活性化を図るべきである**という意見が多く出されました。また**昨今の市町村合併については、地域による温度差などの問題があるものの、逆に組織を再編成するよい機会である**との意見が出ました。

２つ目は、**市町村民会議が一般にあまり認知されておらず、各活動組織間の連携も取られていない**ということです。それにはまず、**国民会議、県民会議、市町村民会議という縦の連携、地域の育成団体・青少年育成アドバイザーなどとの横の連携を改めて図る**必要があります。**それらをネットワーク化し、情報収集・情報発信を積極的に行っていくことで、地域の育成活動、さらには市町村・都道府県を越えた育成活動の活発化へとつなげていくことが重要**です。また活動を広く理解していただくことで、会費制など自主財源の確保につなげていくという事例も紹介されました。

青少年育成国民運動のネットワーク

運動推進エリア	全国的	都道府県中心	市町村中心
組　織	㈳青少年育成国民会議	青少年育成都道府県民会議（三重県は㈶三重こどもわかもの育成財団）	青少年育成市町村民会議
	青少年育成県民会議 青少年団体 青少年育成団体 教化団体・公共団体 マスコミ関係団体（中央） その他の団体 学識経験者等個人会員 賛助会員	青少年育成市町村民会議 青少年団体 青少年育成団体 教化団体・公共団体 マスコミ関係団体 その他の団体 （以上都道府県支部等） 学識経験者等個人会員 賛助会員	ＰＴＡ・婦人会 小中学校・学校関係者 民生委員・児童委員 町内会・自治会・青年団 子ども会・公民館・公民館職員 青少年行政関係機関 社会福祉協議会・学識経験者 商工会議所・商工会等 青少年育成国民運動推進員・推進指導員 青少年育成アドバイザー
関係行政機関	内閣府 中央青少年関係省庁	都道府県青少年問題協議会 都道府県教育委員会 都道府県	市町村青少年問題協議会 市町村教育委員会 市町村

編集後記

以前、取材でお世話になった青少年育成活動をしてみえる小学校ＰＴＡの会長さんからメールが届きました。

「私たちはお金は公に補助していただいているが、活動そのものは民からスタートし、全て民で始めました。今は、小学校に我々の活動を共鳴していただき、先生が一部お手伝いをしてくださっています。学校を動かすパワーは、学校へ要望するという事ではなく、まず自分たちが行動することだと考えます。」熱い思いの『地域の子どもたちへ、自分たちでできることは自分たちでやる。』が伝わってきます。その為に公へ事業計画を提出して予算要求をするのだそうです。住民意識の確かさを実感しました。

『わかすぎ』編集長　中　西　智　子

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています。